

ワークショップを中心とした実践的教育体系の試み 課題Ⅰ

－ 学科学生によるキャリア研究会の企画と実施 －

背景・目的

就職活動は、大学教育の集大成として、社会に出て行く学生自身の体験的自己学習の機会でもある。本学科では、就職活動をそのような体験的自己学習の機会とすることを支援するために、2012年度よりキャリア研究会を教員と学生有志により設置し、学生が企画・運営の主体となって取り組みを進めている。本課題では、キャリア研究会を、体験学習、集団学習、ピアサポート学習、研究会の企画・運営の4つの点から、学生自身が主体的に就職活動に取り組み、学ぶ場とすることを目的とする。

実施内容

2014年度は下記の2つを中心に実施した。

1. 社会的基礎力と情報収集のスキルを養成するためのグループワークの実施

参加学生が主体となって研究会の内容を企画し、顧問のキャリアカウンセラーの指導のもとに、自己分析、グループディスカッション、模擬面接などをグループワーク形式で、月2回のペースで計16回、定例研究会を開催した。内容の一例として、服飾関係を専門的に学んだ学生を中心に希望の多いアパレル関連企業や化粧品・美容関連企業の就職面接で多く実施される私服面接の受け方について、私服の選択のしかた、選択した私服をテーマとした面接の受け方などについて、多岐にわたり実践的な研修を実施した。



2. 職場訪問の実施

11月29日、登米市消防署・防災センター、教育資料館、登米公民館などの見学研修を実施した。登米市消防署では、消防署の任務と地域防災のあり方、消防・防災における女性職員の仕事を模擬体験を交え研修した。



登米公民館では、登米市の概要、自治体職員の仕事及び女性が自治体職員として働くことについての講話を受け、その後、具体的な仕事と生活の両立などをめぐり、意見交流をした。

結果及び考察

こうした研修のなかで、第1に、就職に取り組むことは学びの一つであるという認識が育ったこと、第2にグループワークをとおして、協調性やディスカッション力、観察力、試験管の目で自分を見ることなど、多様な視野を獲得できたこと、実際の職場を体験することで職業を身近なものとして考えることができるようになったことがあげられる。

活動の中でリーダーが育ち、内定獲得後も研究会に参加し、同年齢や後輩のメンバーの相談や指導にあたるなど、大きな成果を得ることができた。今年度の就職率も高水準を維持できたことの要因として評価できる。

今後の課題としては、参加者をより増大させることと学生リーダーの継承があげられる。これは前年と同様、大きな課題である。